

# 学 会 と 情 報 産 業

会 長 出 川 雄 二 郎

1960年に本学会が発足してから、今年の4月で満8カ年になる。まだ生れたばかりの学会ということで甘えてはおられない年令になった。特に本学会の対象としている情報処理に関する学問の発達はまことに瞳目に値するものがあり、またこの学問を基礎にもつ情報産業の進展、その社会における役割を見ると、本学会がますます重大なる社会的使命を両肩に担うに至っていることを自覚すべきであると考え。

試みに本学会発足の年度の電子計算機の設置台数を調べて見ると僅かに200台以下であり、そのうち国産品は50台にすぎない。8年後の現在、すなわち1967年度末の設置台数は、正確な数字はまだ出ていないが、3,500台以上である事は間違いない。うち国産品は2,000台に及ぶと思われる。実に8年間に台数で18倍、国産品だけを見ると、40倍にもなっているのである。

本学会はその間如何なる発展をして来たであろうか。会員数は設立当初約700人であったが、現在約2,500人と約3.5倍に増加しており、また年予算額は当初の350万円が昭43年度では約1,900万円で約5.5倍の増加となっている。

その間、学会は歴代の会長始め理事の方々の御努力により、創設期の同好会的性格を逐次改めて、確固とした基礎をもつ一人前の学会として育って来た。とはいうものの学会運営の諸状況、経理的背景も現在十分

固まったとは必ずしもいい難く、諸般の面で整備されなければならない点も未だ多い。

電子計算機の設置台数と本学会の会員数あるいは予算額とは必ずしも一義的な関係があるわけではないが、前述の如く前者の増加率に比し、後者の増加率が相当下回っているのを見ると、本学会はその社会的責務を十分果しているとはいえないのではないかという一抹の不安を感じる。



情報処理に関する産業のうち、上述のような電子計算機産業そのものの急速なる進展に加えて、さらにソフト・ウェア関連企業もまたその揺籃期を脱せんとする時期に来ている。米国においては設置計算機数、現在約55,000台に対応して、ソフト・ウェア企業の発達は極めて目覚しく産業の一分野として確固たる地位を築き上げているのを見る時、わが国においても極めて

近い将来この方面の飛躍的發展が期待される。ソフト・ウェアを含めて、この情報処理に関する産業は日本においても1970年にはおそらく1,000億円産業になるといわれている。

このような状況からみて、情報処理に関する基礎的学術の開発研究は一層の重要度を増してくることは明らかである。学会として私共がなさねばならぬ事はますます多量となり、ますます多岐にわたる。私は会員諸兄の一層の御協力、御支援を得て、本学会の発展に一段の努力をつづけてゆきたいと思う。

